

校区の共育目標「ふるさと長糸を愛し、そのよさを伝え広げる子どもたちの育成」【参加と貢献！】
「コミュニティ・スクール長系小」学校運営協議会通信

長系びより

令和5年度第3号
令和5年11月21日

令和5年11月17日（金）、令和5年度第3回の長系小学校学校運営協議会を開催しました。
まずは、10月末の長系ふれあい文化祭を終えてぐんと成長した子どもたちの学習の様子を参観していただきました。委員の皆様には、今回も温かいお言葉をいただきました。

【委員の皆様の感想】

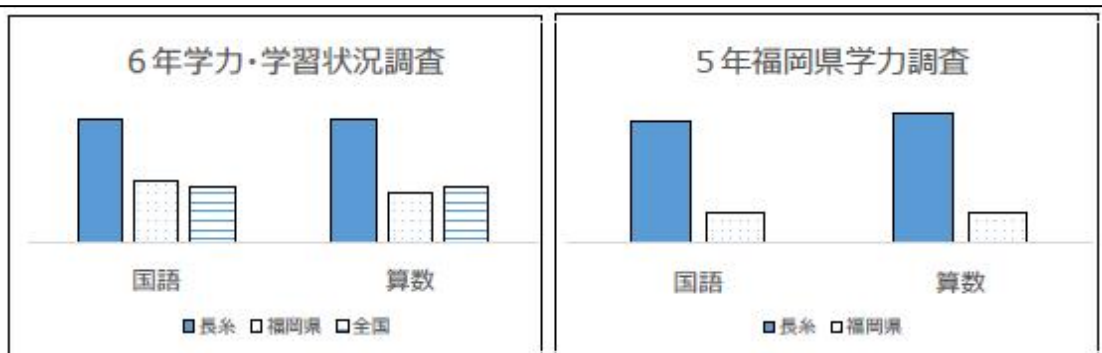
- 子ども達にとって学習しやすい環境がなされていると感じました。
- 学級を分割して学習する形態は、基礎・基本の内容をしっかりと理解する上でいいなと思いました。子どものときにしっかりと基本を学び、大人になって生かすことは大切なことだと思います。
- 学級を分割して、教師の目の行き届きやすい環境で学習する子ども達は幸せだと思います。
- 少人数で学習することは、子ども達の苦手意識や困り感にいち早く気付くことができ、内容の理解・定着に有効だと思いました。
- タブレットを使った学習を見て、子どものときにタブレット操作に慣れておけば、大人になったとき、どれほど役に立つか、社会にどれほど順応・適応できるかと期待がもてました。
- 子ども達は、参観の方が来ても学習によく集中していると感じました。
- 私たちが子どものときとは比べものにならないくらい、子ども達はよい環境で学習して羨ましいと思いました。親子共学は、子どもにとっても親御さんにとっても、すてきな取組だと感じました。
- 子ども達一人一人に目が行き届いたり、子どもの学習進度に合わせて授業を行ったり、グループ内の一人一人の考えが大切にされたりすることが、本校の「小ささのよさ」だと思いました。



今回も、子ども達の様子をじっくり、そして微笑ましく見ていただき、ありがとうございました。
今後も、本校の特色でもある「小ささのよさ」を最大限に発揮できるよう、引き続き、子ども達の資質・能力を伸ばしていきます。

学習参観後の協議会では、本校の学力の実態、学校関係者評価(案)について説明しました。

長系小の学力の実態(第5・6学年)



【全国学力・学習状況調査(6年)】

【福岡県学力調査(5年)】

学力調査では、質問紙調査も行われています。本校の成果として以下の点が特徴的でした。

(成果)

- ①文章を読んで理解したことをまとめる力が付いている。
- ②算数の基礎・基本の内容を身に付けることができている。
- ③規則正しい生活を送ることができている児童が多い。

本校では、『学力向上プラン』を作成しています。このプランは、児童の学力向上を図るために①学力基盤づくり②授業づくり③教員の指導力向上④家庭・関係機関との連携の4つの視点から、取組をまとめているものです。今回の結果から、学校の取組による一定の成果が明らかになったと考えます。しかし一方で、以下のような課題も見られました。課題もあります。

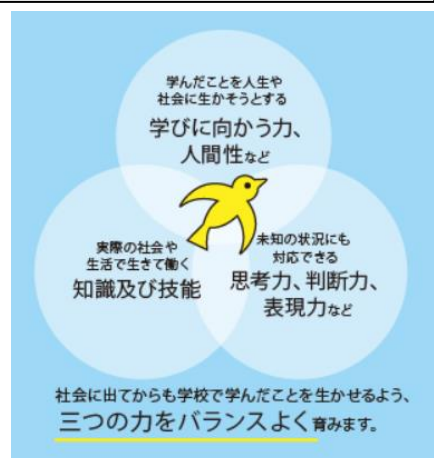
(課題)

- ①文脈に合う正しい漢字や場面に合う言葉を選ぶことに課題がある。
- ②自分のよいところを見つけたり肯定的に捉えたりすることに課題がある。
- ③学校や家庭で自主的・自発的に学習に取り組む意識に課題がある。

「学習意欲」と「学習習慣」、そして、「基本的な生活習慣」が学力に大きく影響します。学校では、学力向上プランを改善しながら、組織的な学力向上の取組を進めて参ります。御家庭におきましても生活の見直しや学習の取組をどうぞよろしく願いいたします。

学力調査・質問紙調査の結果から、文章を読み取る力の定着、算数科の基礎・基本の定着、規則正しい生活を送る児童が多いことが見てとれます。一方、目の前の状況に合わせて自分で物事を選択する力、自己肯定感、自主的・自発的な学習への取組の姿勢に課題があります。

現在、学校では、右図のような「学びに向かう力、人間性など」「思考力、判断力、表現力など」「知識及び技能」の三つの力をバランスよく育むことをねらいとしています。いずれの力も、子ども達が社会に出て活躍することができるための重要な力です。今後も、子ども一人一人のよさや困り感に寄り添うことで、この三つの力を育てていきます。



学校関係者評価

学校関係者評価とは、学校運営について学校側が評価したもの（学校は、児童、教職員、保護者の評価を総合的に判断します）を学校運営協議員の皆様に評価していただき、本年度の成果と課題を明らかにし、次年度の方向性を見いだすものです。評価していただく項目は、「学力向上」「児童生徒指導」「組織運営の充実」「教育環境の整備・充実」「信頼される学校づくり」の5つです。以下に、それぞれの具体的な目標及び具体的方策を記しています。次回の第4回学校運営協議会（1月25日開催）以降、これらについて、4段階（A:適切である B:概ね適切である C:やや不適切である D:不適切である）で評価していただき、3月に糸島市教育委員会に提出します。

評価項目	具体的目標	具体的方策
学力向上	「生きる力」を育むための主体的な学びの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研修「自ら学び続ける子供の育成」を軸とした、子供が主体となって活躍する授業づくりを推進する。 ・学びづくり部、学力向上コーディネーターを中心に、学力保障・向上を図る家庭学習の内容と方法づくりに努める。 ・授業で効果的にICTを活用し、個別最適化な学び、協働的な学びを推進する。 ・専科教員による授業実施、イングリッシュデーの設定や校内環境の整備により、英語教育の充実を図る。
	低学力・学力の2極化の課題克服のための組織的な学力補充の取組と個別の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査等分析をもとに、授業改善や学力保障・向上の具体的な取組（多様な学習形式・学習規律等）に生かす。 ・ふり返りを充実させ、指導の個別化・学習の個性化に努める。 ・基礎・基本的な学習内容の定着を図るモジュールタイムをつくる。 ・PTA「家読」や毎日の「読活」に意図的・計画的に取り組み、読書習慣を身に付け、「読む力」の向上を図る。
児童生徒指導	積極的生徒指導、子どもに寄り添う支援を徹底した支持的風土を大切にする集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・元気なあいさつができる子どもを、学校・地域・家庭で協働・連携して育てる。 ・「いじめ防止対策基本法」に則り、いじめのない仲間づくり、集団づくりをめざす。 ・児童会や各委員会と連携し、楽しく活気ある活動や縦割り活動を進める。
	児童及び地域の実情に応じた機能教育（健康・交通安全・災害防止等）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係機関と連携して、交通安全教室や火災等の避難訓練を実施し、安全教育を推進する。 ・引き続いての感染症対策や健康教育の推進を図るとともに、SC・SSW等を活用した積極的な教育相談を行う。 ・体力向上プランをもとに、年間を通して、子どもの実態に応じた体力づくりを行う。 ・全学年で性教育を行い、自他の体と心を大切にする態度と実践力を育てる。

組織運営の充実	適切で効果的な校務運営に向けた組織づくりや運営	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌(学びづくり部、安心・つながりづくり部、安全・健康づくり部)を整理し、部会運営を通して、教育活動への職員の主体的な運営参画を促すとともに、機能的な組織運営に努める。 ・小規模校のよさを生かした情報の迅速な共有と、全学級での同一方向での指導・支援に努める。 ・教師の自己評価・児童評価・保護者評価の結果の相互関連を分析し、学校経営・校務運営の改善に努める。
	職員同士の対話や各研修を通じた教職員としての資質や指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自己目標の設定、自己評価及び管理職との面談等を通して意図的・計画的な目標改善と行動改善に努める。 ・校内研修年間計画に基づき、多様な研修を計画し、今求められている教育を推進する。 ・初任者研修を通して、授業力、学級経営力のさらなる向上に努める。 ・近接学年研修会や各部会を定期的に行い、授業力、学級経営力、校務運営力の向上を図る。 ・法令を遵守して勤務することができるように不祥事防止についての研修を定期的に行う。
教育環境の整備・充実	定期的な校舎施設の点検活動と施設・設備の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の点検、毎月の安全点検等を通して、校舎の施設・設備の修理箇所や改善箇所の早期発見に努め、速やかにその改善に努める。 ・市教委の支援を得て、施設・設備の充実並びに有効活用に努める。
	計画的な校舎内の掲示や美化活動と明るい校舎づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な校舎内の掲示物の作成および美化活動を実施し、醸し出す雰囲気が見やすい校舎になるように努める。 ・各教室や特別教室の掲示物の統一を図り、教室環境の整備、充実に努める。 ・「めあて」と「評価」がわかる環境構成の計画的な整備に努める。
信頼される学校づくり	地域とのつながりを大切に社会に開かれた教育課程の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前に実施していた地域との連携におけるよさを引き継ぎ、今後求められる子ども達の資質・能力の育成に応じた地域連携の在り方を見いだしていく。 ・長系の人・もの・こととのふれあいを通じた地域のよさに気付く教育活動「ふるさと学習」を、生活科及び総合的な学習の時間を通して行い、地域に参加・貢献する子どもの実現をめざす。
	学校運営協議会を中心に、教育活動の検証と改善をすすめる、長系校区や長系小学校の特長を生かした教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学級通信、ホームページ等により、学校の様子を地域・保護者に発信する。 ・定期的に保護者や学校運営協議会委員に対して学習参観を行い、子どもの様子を多面的に捉える。 ・保護者アンケート等の結果を考察、説明(公表)することで、学校運営の改善に生かす。

アフターコロナ期の教育と「小ささのよさ」を組み合わせた教育の創造に向けて



第1回学校運営協議会の折に、仲西委員長が言われた、「『小さいこと』を生かした地域連携」。これは、現在の学校が目指している三つの資質・能力の育成に必要不可欠な要素です。そのためには、アフターコロナ期における学校、家庭、地域との「つなぎ」が大切になってきます。子ども達の資質・能力の育ちにおいて、「何を」「どのように」つないでいけばよいのか明らかにしていく必要を感じた第3回学校運営協議会でした。

＜第3号 文責：教頭 二串 英一＞